



シルバーだより

道 標

第 5 号

H26. 1. 1

理事長
新年のご挨拶

2

人物ウオッチング

ミニ門松を作り続けて...

3

特集

ぜひ読んでおきたい

4

安全への辛口対談

6

お客様の声・働くなかま

7

トピックス

秋を彩る大分生活文化展



新年のご挨拶

公益社団法人大分市シルバー人材センター

理事長 久渡 晃



シルバー人材センターも昭和五十九年に発足以来、今年で三十周年を迎えることとなりますが、この間、様々な取組を通して大分市のまちづくり、地域づくりに大きく貢献をしてまいりました。

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお喜びを申し上げます。

また、平素は、大分市シルバー人材センターの事業推進に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

度的に押し寄せております。

また、三十年後の世界人口は七十億人から九十億人に膨れ上がるとも言われておりますが、日本の総人口は現在より二千万人も減少する一方で、七十五歳以上の後期高齢者人口は八百万人増加し、総人口の二十五%を超えるとも予測されております。

このようなことから、高齢者を取り巻く社会経済の変化にどう対応していくのか、早急に総合的視点に立った施策の構築が求められております。

年金問題や介護の問題だけでなく、高齢者の皆様が生き生きと活動することで自ら培った知識・経験、ノウハウなどを地域で生かしていける環境の整備も必要となつてまいります。

大きな社会の転換期を迎えて、私たちシルバー人材センターの活躍の時でもあります。

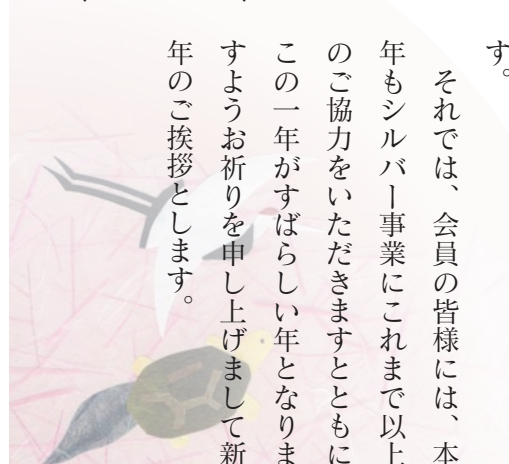
シルバー人材センター事業は、地域の高齢者の活動を支えるため

に、不可欠な存在として、その重要性は一段と増しており、会員の皆様自らの地域での生きがいづくり、健康づくりに、非常に大切なものであると考えております。

当センターも、これまで、雇用の場の拡大に向けて就業開拓につとめ、昨年は、大分市の公園管理業務を始めとするいくつかの事業の拡大を図ってまいりましたが、今年も、さらに多くの雇用の場の確保を図ってまいります。

そして、懸案でありますセンター事務所の早期移転に向けても、さらに、取組みを進めてまいります。

それでは、会員の皆様には、本年もシルバー事業にこれまで以上のご協力をいただきますとともに、この一年が素晴らしい年となりますようお祈りを申し上げまして新年のご挨拶とします。





三浦さん

佐用さん

人物ウオッチング

ミニ門松を 作りつづけて1/3世紀

佐用 治生 さん(田尻A班)
三浦 健次 さん(三佐A班)

新年を祝って門口に立てる松飾り、「門松」は日本の正月風景に欠かせない伝統工芸である。その昔、お偉方の武家屋敷で、正月を迎えるための庭の剪定をした折、余った木や花で門飾りを作ったと云うのが門松の由来だと言った。

この、先人の残した門松と云う文化を、型は小さいが三十年以上も作り続け、伝え続けている佐用治生さんとその後継者三浦健次さんに色々なお話をうかがった。

何かしてみよう

六十歳を前に定年退職した佐用さんは、元々庭いじりが好きで、現役の時から年の暮れになると門松を作り会社の門を飾ったり、人にあげていたと云う。

たまたま作ってみた小さな門松が意外と好評でこれが佐用さんとミニ門松の出会いであり以後、三十年以上もの付き合いになる。

平成三年、佐野植物公園園長の依頼により市報で募集した四十名の受講生にミニ門松に加え、高ボウキ・ゾウリ・ひょうたん等、昔から引き継がれて来た、日本の伝統工芸の「技」を指導。

これを機に、小学校や公民館へも出向き、指導している。平成四年、シルバー人材センターの当時の局長から「伝統芸能の技能を絶やすことなく長く残そう！センターの事業としても会員にミニ門松やゾウリなどの作り方を教えてほしい」と強く背中を押され、この時、佐用さんもシルバー会員に。

城址公園や各地イベント会場に出向き実演や販売に積極的に参加したのもこの頃である。

大分ふるさと名人

平成六年、市の事業「大分ふるさと名人」に認定される。「地域に伝わる優れた技能を持つ熟年者」と云うのが認定条件でまさに佐用さんにぴったりであった。

センターに入会以来剪定部一筋の佐用さん、平成六年には剪定部会長として剪定部を引っ張り、以来、会長と理事を八期も務めることに。

三浦さんと同好会

平成二十一年、剪定部二期スクール生として入会した三浦さん。ぼつぼつ後継者探しをしていた佐用さんに「ミニ門松」作りの声をかけられスクール生の同期四人を誘って同好会を作っている。

ミニ門松作りは十二月である。毎年この時期になると四人を中心に各々が声をかけた作り手が集まり、山で竹を切り、飾り物を購入。松・南天・砂・寒水石・荒ナワを用意し、二十五日頃から後見役の佐用さん宅で制作作業に入る。

「平成二十四年までは、生活文化展などで注文を受け、同時に作り手に声をかけていたのですが、年々、次へ伝える作り手が少なくなつて淋しい限りです。今後受け継いだ私達がどう守って行くのか、なんとか佐用さんの熱い思いを絶やさない様にかんばりたいですネ」三浦さんの深い声が耳を離れない。

※写真は同好会のみなさんと作品



安全への辛口対談

安全委員長 藤元 康保さん
聞き手 「道標」編集委員

はじめに 会員皆さんの健康と安全を願って、日々活動を続けられている安全委員のご苦勞に、心より感謝申し上げます。

ある大手電機メーカーが、長引く業績不振を機に、安全への意識高揚に取り組むことで、飛躍的な業績向上を継続しています。

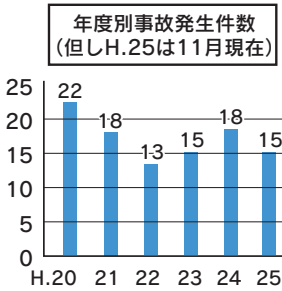
安全を経営の根幹として最優先することの重要性は、正に「安全は全てに優先する」の一語に尽きることが教えられます。

今日はセンターの安全について、藤元委員長に忌憚のない本音のお話をお伺いすることにしました。

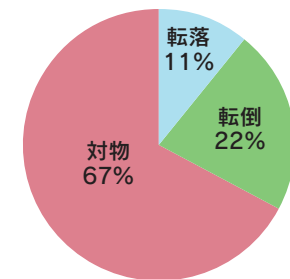
Q 近年の事故形態について教えてください

A 以下の図の通り、ここ数年の事故発生件数は平成二十年をピークに、それ以降は減少傾向にありましたが、残念にもここに来て、(十一月二十五日現在)既に十五件と憂慮すべき状況下にあります。

今一度、一人一人が安全への意識を高め、ストップ・ザ・アクションに徹しなければなりません。低減化はもとより、「0」を目指すが、会員の使命でもあります。



事故型発生状況



不足等、安全に対する意識の低調さが指摘されます。尚、最近の受注増加に伴う屋内作業にも注目する必要があります。

事故発生の時期としては、従来夏の六月から九月に七十%を占めていたが作業開始時刻を早める等、健康管理を意識した創意工夫対策が功をなし、前年度に比べ減少傾向にあります。更に本年度はさいわいに熱中症の報告もありません。

又、事故型では、転倒・転落・挟まれ及び対物事故が主で、残念ながら旧態然にあります。

このことは、ハード面にあつては対策への不履行で、例えば飛来防止の未設置・脚立の不適正使用等であり、ソフト面では危険予知

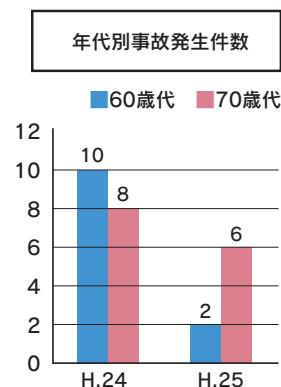
グループ内作業、特に女性同士での相互注意を活性化させることが肝要です。

即ち、リーダーの熱意と一人作業に移行後の安全意識の喚起が求められます。勿論、屋外作業に有っても同様です。

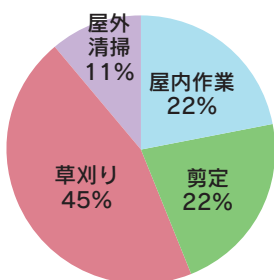
Q 年代別発生状況はどうでしょう

A 二十四年度の実績では六十歳台が事故の六十%を占めていたが平成二十五年度は七十歳台が八十%と逆転傾向にあり、年齢に適応した作業内容・経験・環境等々、広角度で見る必要を感じている。

Q このことで、一つの提案を挙げたいと思うのですが…



作業内容別事故状況



A 広く多くの意見を検討するためにも是非聞かせて下さい。

Q 例えば、ある年代 (仮に七十歳として) に達すれば、安全管理者に任命し、グループの安全指導に専念して戴くとか…

現場を見ていると、班長自身が高所作業に就き一切、安全管理はおろそかであると、お客さんの声はドキドキハラハラと同時にきびしい。

A 先にも申しましたが、技量等種々の兼ね合いを考慮し、その目安となる基準を設ける時期かもしれません。今一度、掘り下げて解析する必要がある、皆さんの安全を考えるとき、避けて通れない重要事項で、急ぎ理事会に諮り検討したい。

Q ある森林環境の講習会で、草刈り作業の刈払い機の取扱いで、シルバー人材センターの無資格作業の実態が例にあげられ残念な思いをしたが修了証等の取得状況や携行しての作業実態は、どうなのでしょう

A 技能講習・特別教育等の修了証書の有無に付いては、各部会で講習会を実施し、修了証書を交付しているが、安全委員会としては十分把握していないのが実情です。

早速、労働安全衛生法に定める必要資格等の調査と併せ、事故撲滅の一助といたく、早期に対応します。

同時に、作業にむかう姿勢や事故に対する危険性の有無、周辺の人への配慮等々、仕事の仕上がりを含め、基本的なモラルの育成と、今一度シルバー人材センターの理念を理解して戴くよう、共に努力していきたい。新年度からの実施に向け検討を急ぎます。

Q 就業開拓員時に、訪問先で耳にする苦情に、仕事はお願いしたが「請けたのはここまで」、後は話も聞こうとしない。

このような苦言や安全対策の不備を多々聞かされたが、発注して戴いたお客さんへの基本的なマナーはどうなっているのでしょうか？

A お客さんや第三者からの批評・不平不満・安全意識に係わる要望などについては、物損事故を通じて間接的に認識しているが、保険処理など具体的な対応も聞いていません。安全委員会として、反省すべき点だと思っています。

尚、批判される芳しくない作業態度やモラルの欠如については、風評で耳にするが、グループからの正報告もない。こうした安全意識の欠如や言行・モラルについては、安全委員会とグループで、適

宜に意見交換を図り、問題の本質を知る必要があります。近々にも計画してそれらの具体例を掌握しなければなりません。

Q 安全委員会での事故「0」にむけての今後の取り組みをお聞かせください。

A 事故「0」の達成は安全委員会のみならず、センターの最重要課題であり、念願でもあります。安全確保に特効薬はありません。

現在、安全委員十二名が、各々実践活動での具体策を検討中です。その目的は、現場で会員と語り、無駄話をする泥臭いお付き合いで、安全について共感して戴くことです。

Q 賞罰制度があったと聞いていますが定時総会の議題にも上がってきません。廃止されたのですか？

今後の信賞必罰制度の導入についてお聞かせください。

A 事故を二回発生させたグループや個人に対し、ある期間作業に従事させない経緯があるが、その後同じグループや個人の事故の発生がない実態により、安全計画に盛り込んでいませんが、非常に効果的でした。

Q 罰則だけでなく、安全への意識高場にもつながります。是非、定時総会時の理事長表彰となるよう、再度導入をご検討ください。

A 早急に安全委員会で基準等を検討し、事務局へ進言しましょう。

Q 最後に安全委員会として、働く会員の皆さんやグループの班長さんへの要望等ありましたらお聞かせください。

前述してきました通り、安全委員会としては、皆さんが安全に働ける職場づくりのお手伝いが、必ずしも出来ていません。

これを機に、現場で汗する皆さんと直接お会いし、世間話しの中の苦情や安全対策の要望などお聞きたいと考えています。

これからも、安全委員会が先頭に立ちオールシルバーセンターとして、品格と共に、事故「0」を目指します。

今後とも事務局・グループリーダー・安全推進委員の皆さんの、一層のご協力をお願い致します。

おわりに
長時間、貴重なお話を有難うございました。

会員の皆さんは、永年厳しい現役を終え、尚も、第二の人生にまた地域起こしにと貢献されています。今後もしルバー人材センターの会員として、安全第一・品格にじむ社会人として、益々健康で頑張つて戴きたいものです。

そのためには是非、安全委員会のお力添えをお願い致します。



快挙！

尾林 耕次 会員
(滝尾D班)

放置自転車再生業務（業務地・米良）に従事されている尾林会員さんが、福岡市で実施された自転車安全整備技能検定試験に見事合格されました。この試験は国家公安委員会の委託を受け公益財団法人日本交通管理技術協会が実施しており、極めて重要な価値のある技術を身につけていることを認められたことであります。

受験用の自転車をご自分で運ぶなど大変だったとは思いますが、学科・実技・面接の各試験を一発でクリアされました。これは、常日頃の尾林会員のためまぬ努力と技術研鑽に邁進する真摯な取り組みの成果です。

今後もし益々お元気で頑張ってください。本当におめでとうございます。



お客様の声



有限会社サンスマイル
代表取締役社長

富沢 泰公 さま

私共、有料老人ホームとまでは、ご利用者の皆さまに満足感・安心感を提供し、「生きがい」・「尊厳」・「プライバシー」等基本的な権利を守りながら、「介護する」のではなく「介護させていただく」の精神をモットーにサービスをさせていただくことを心がけています。

当施設は、平成二十三年四月に開設し、現在では約七十四部屋の居室数を有する老人ホーム二棟・



小規模・中規模型のデイサービスが二カ所あり、中でもシルバー人材センター様には、老人ホームでの朝食・夕食時の

配膳・下膳・利用者様の見守り等の業務を委託しております。

シルバー会員様に担っていただくことにより、その分職員が利用者様へ力をそぐことが出来るため、大変感謝致しております。

今年の九月から約八名の会員様に来ていただいておりますが、皆様それぞれがこれまでの豊かな人生経験を活かし、落ち着いた対応で優しく利用者の皆さんを見守ってください。迅速かつ丁寧な仕事ぶりで大変助けていただいております。シルバー会員様の仕事に対する謙虚な姿勢と懸命な姿を私共も学ばせていただき、今後も末永くお付き合いができることを願っています。



甲斐 弘さん 会員歴5年
知恵子さん 〃 1年
(荏隈4班)

笑顔が素敵でどこか都会的な雰囲気、甲斐弘さんと、穏やかな話し方から優しい人柄がうかがえる奥様の知恵子さんにお話しをお聞きました。

夫婦で「草刈り」頑張っています。

「草刈り機を使つての作業は危険を伴うだけに二人のときは安心感があります。小石や異物の飛散は、人や周囲の建物・自動車等に被害が及ぶこともあるので、作業場所の状況を十分把握し仕事に取りかかっています。このこともすべて働く仲間との関わりのなかで得たものと深く感謝しています」

奥様の知恵子さんは八年前に脳梗塞を発症、治療とリハビリと本人の頑張りでは今は仕事ができるほど

健康になったということです。しかし「この夏一度だけ、仕事の途中で気分が悪くなり家に帰りました」と炎天下、外で作業する厳しさをボツリひと言。

写真を撮りに現場へ

朝、八時過ぎに現場に着いた時にはもう作業は始まっていました。保護具を着用した弘さんが刈り取った草を知恵子さんがかき集めて袋に入れる。しゃべらずともわかる「阿吽の呼吸」がそこにありました。

お会いして心に残ったことば

☆コックの小僧時代に培った仕事のこだわり「丁寧な手間とサービス精神」

☆「仕事するうえでは自分なりの誠意を持って仕事を完成させるように心がけている。そうすることにより、お客さんに次の仕事をいただけることにつながるから」――

いいことばですね。有難うございました。



本格的なスキューバダイビングに挑戦！

奥様は浜で食事の準備どこへ行くのも二人一緒！



第四十七回大分生活文化展が、大分城址公園（大分文化会館前）で十月四日（金）十四日（月）まで開催されました。

公益社団法人大分市シルバー人材センターも手作り作品等を出店し、多くの市民で賑わい大盛況のうちに終わりました。



秋を彩る 大分生活文化展



クアハハ
ガヤガヤ



広報誌の「写真」を求めて！

去る十月二日（水）広報誌の干支の写真を求めて、メンバー五人で久住レゾネイト牧場にて写真を撮りました。

帰りながら、庄内の日本名水百選の「男池」を散策、収穫の多い一日でした。



私達も参加しました!!

ヒューマンフェスタ2013おおい

十一月三十日、今年もまたシルバー人材センターから手話サークル「陽だまり」が私達の身のまわりで起るさまざまな人権問題を手話表現の形で参加しました。

「ガレリア竹町ドーム広場」で初の屋外ステージにドキドキとエキサイティングな社会参加活動の一日でした。



いよいよ出番！
最後のチェックです



掲示板

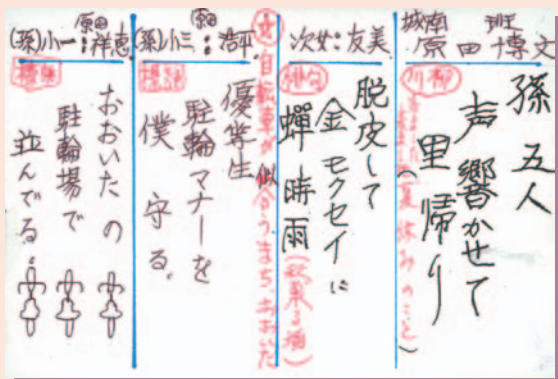
俳句・川柳・手芸・趣味等
募集しています。

川柳

妻の顔

都合良い時 ふり廻わす

澤江 省吾
(敷戸B班)



原田 博文(城南班)

短歌

仲間居て心通わす働き場

思いはひとつ 健やかなれど

城井 俊子
(明野G班)

剪定の機械の音につられてか

蝉が飛び来て刃先にて鳴く

松本 悟
(滝尾D班)

しぐれ雨 家路へ急ぐ人影に

思いはひとつ家族の笑顔

田上 幸也
(敷戸A班)

お知らせ

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えるの事と存じます。

昨年中は、多数の作品を応募いただきありがとうございました。紙面の都合ですべての作品の紹介が出来ませんでした。が、次号(六号)から順次掲載していく予定です。本年も、皆様の投稿をお願い致します。

河野 美恵子(寒田A班)

シルバーだより

道 標 第 5 号

●発行／平成26年1月1日

●発行所／

公益社団法人大分市シルバー人材センター

〒870-0154 大分市高城西町32-16

TEL 097-552-3220(代表)

FAX 097-552-3796

ホームページのご案内

<http://oita.o-sjc.com/>

会報編集委員

瀧本雄介・田村益子・本田道子

後藤幸敏・阿部治行

編集後記

今年は飛翔の年、午歳である。昭和五年・十七年・二十九年生まれが年男・年女に当たります。かの聖徳太子も午歳生まれである。日蓮上人や「わび茶」の千利休もそうである。

身近には一万円札肖像の福沢諭吉も午歳である。多くの偉人を輩出し頭脳明晰・統率力にすぐれ、政財界は勿論、いかなる世界でもトップになり得る素質大と、一説にはある。

午歳さん、今一度シルバー人材センター発展の為、馬力と智力を出されては如何かな。

今号の表紙は、飛翔の年に相応しい今にも天空に飛び立ちそうな澄んだ空と、久住高原の緑。正に癒しの世界である。(写真撮影は編集スタッフ)